

〇〇水産 御中

**養殖業ビジネス評価書（例）  
（藻類養殖）**

2021年〇月〇日

# 目次

1. 背景と目的
2. 調査プロフィール
3. 総評（エグゼクティブサマリ）
4. 評価結果の一覧
5. 詳細評価結果
6. まとめ

# 1. 背景と目的

## [背景]

我が国周辺水域の水産資源の漁獲が不安定な中、魚食を好む日本人が安定して水産物を楽しむためにも、計画的で安定的に生産できる養殖に対する期待は高く、国の内外を問わない関心の高まりから養殖業を成長させる好機を迎えている。

こうした背景を踏まえ、国は、国内外の需要を見据えて戦略的養殖品目を設定し、生産から販売・輸出に至る総合戦略を立てたうえで、養殖業の振興に本格的に取り組むこととし、令和2年7月に「養殖業成長産業化総合戦略」を策定した。

地域金融機関において、養殖業を営む事業者の事業内容や成長可能性などを適切に評価（事業性評価）し、解決策を検討・提案して必要な支援・資金供給を行うことが求められている。

## [目的]

本評価により、〇〇様の養殖事業の維持・成長可能性の評価、ひいては金融機関における養殖事業の事業性評価および融資判断の一助とする。

## 2. 調査プロフィール

- 取扱対象種 : 海苔
  
- 評価実施日 : 2021年〇月〇日
  
- 評価に際して開示いただいた主な資料
  - 決算書（3期分）
  - 資金繰り表
  - 作業日誌
  - 仕入伝票
  - 出荷管理簿
  - 採算管理資料

### 3. 総評 (エグゼグティブサマリー)

#### 総合評価結果

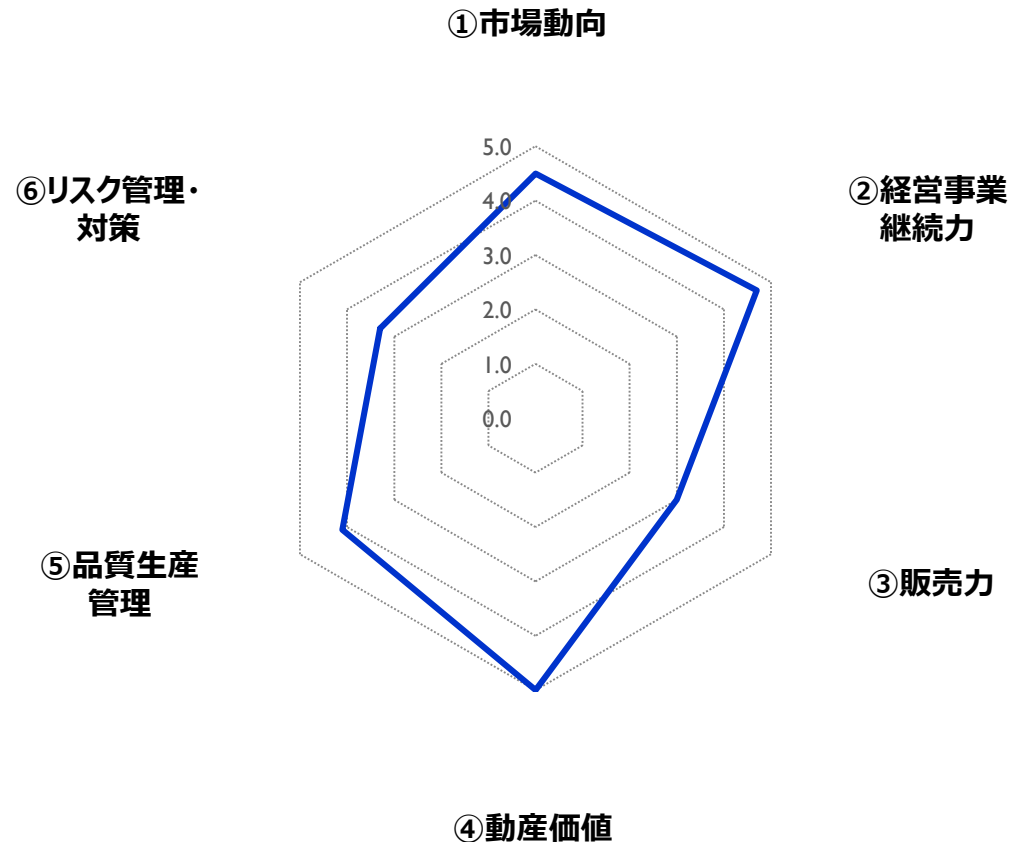
評価合計 **85点** (100点満点換算)  
(151点中128点)

評価項目平均 **4.0点/5点**

自社採苗から養殖まで一括で取り組んでおり、40年以上事業継続。  
若手社員の採用も行い、十分な養殖・加工スタッフは配置しており、  
物量・出荷能力も高い。  
品質・衛生管理、リスク管理にも十分な取り組みがみられる

#### 評価概要<項目平均5点満点>

- ①市場動向 <4.5点>
- ②経営事業継続力 <4.7点>
- ③販売力 <3.0点> (注) 配点は3点
- ④動産評価 <5.0点>
- ⑤品質管理・生産管理 <4.1点>
- ⑥リスク管理・対策 <3.3点>



## 4. 評価結果の一覧

No	大項目	No	中項目	配点	得点	平均点
1	市場動向	1-1	過去・現在・将来の動向	5	4	4.5
		1-2	市場規模	5	5	
2	経営事業継続力	2-1	養殖事業計画・経営基盤	5	5	4.7
		2-2	養殖環境	5	5	
		2-3	養殖事業継続実績	5	5	
		2-4	事業収支管理の実施	5	5	
		2-5	経営者の経営能力・手腕	5	5	
		2-6	人材育成	5	3	
		2-7	事業の将来性・可能性	5	5	
3	販売力	3-1	販路先の確保	3	3	3.0
		3-2	販路拡大への取組み	-	-	
		3-3	商品開発力・加工販売力	3	3	
4	動産価値	4-1	換金容易性	5	5	5.0
		4-2	在庫バランス	5	5	
		4-3	物量	5	5	
		4-4	将来予想価格	5	5	
5	品質管理・生産管理	5-1	採苗	5	5	4.1
		5-2	付着物の除去	5	5	
		5-3	養殖施設の管理	5	4	
		5-4	品質管理全般	5	4	
		5-5	生産管理全般	5	5	
		5-6	衛生管理全般	5	5	
		5-7	海苔の場合は乾（ほし）海苔製造	5	5	
		5-8	包装・出荷	5	5	
		5-9	認証取得	5	0	
		5-10	知財取得	5	3	
6	リスク管理・対策	6-1	天災回避対策	5	4	3.3
		6-2	病害対策	5	4	
		6-3	環境変化	5	4	
		6-4	共済加入有無	5	5	
		6-5	損害保険加入有無	5	0	
		6-6	市場リスク	5	3	
				151	129	4.0

100点換算： 85

各項目において、以下のとおり評価

0・・・何もしていない、1・・・ほんの一部分を実施（十分でない）、3・・・養殖業として基本的な取組みを実施又は問題ない状況

5・・・特別に十分な取組みを実施又は良好な状況

## 5. 詳細評価結果 ①市場動向

### 評価結果

評価合計 **9点/10点**

評価項目平均 **4.5点/5点**

- ・当該養殖種の需要トレンドは10年間で横這い傾向にあり、市場ニーズは安定的

No	大項目	No	中項目	得点	コメント
1	市場動向	1-1	過去・現在・将来の動向	4	・海苔の生産量は過去10年横這い傾向
		1-2	市場規模	5	・市場ニーズは安定的

## 5. 詳細評価結果 ②経営事業継続力

### 評価結果

評価合計 **33点/35点**

評価項目平均 **4.7点/5点**

所属する組合の事業活動は中期的視点で事業価値向上に向けた取組みがなされており、当該経営体も養殖技術・経営手腕を有している。  
後継者などの人材確保が課題

No	大項目	No	中項目	得点	コメント
2	経営事業 継続力	2-1	養殖事業計画・経営基盤	5	・乾燥機の共同購入等組合としての経営計画策定・執行がなされている
		2-2	養殖環境	5	・培養場のカキ殻糸状体を使用
		2-3	養殖事業継続実績	5	・30年以上事業継続実績あり
		2-4	事業収支管理の実施	5	・必要な設備・人件費等の経費を把握・管理した上で、事業収支を把握
		2-5	経営者の経営能力・手腕	5	・品種の選定や干出管理に綿密に取り組んでおり、経営手腕がある
		2-6	人材育成	3	・人材確保が課題
		2-7	事業の将来性・可能性	5	・養殖環境、市場、生産、管理、販売体制が構築されており、安定感あり



## 5. 詳細評価結果 ③販売力

### 評価結果

評価合計 **6点/6点**

評価項目平均 **3点/3点**

組合の販売ルートに依存

No	大項目	No	中項目	得点	コメント
3	販売力	3-1	販路先の確保	3	・組合の販売ルート
		3-2	販路拡大への取組み	-	-
		3-3	商品開発力/加工販売力	3	・組合としての商品性・品質を確保

(注) 配点そのものが3点

## 5. 詳細評価結果 ④動産価値

### 評価結果

評価合計 **20点/20点**

評価項目平均 **5.0点/5点**

動産としての価値（換金性）は高く、在庫バランス・物量とも十分確保されており、将来においても事業価値の維持・向上が見込まれる

No	大項目	No	中項目	得点	コメント
4	動産価値	4-1	換金容易性	5	・養殖種としての換金性は高い
		4-2	在庫バランス	5	・販路の需要に応えるだけの生産量は確保
		4-3	物量	5	・販路の需要に応えるだけの生産量は確保
		4-4	将来予想価格	5	・実数は未定であるが偏差を勘案すると高評価が想定される

## 5. 詳細評価結果 ⑤品質管理・生産管理

### 評価結果

評価合計 **41点/50点**

評価項目平均 **4.1点/5点**

施設管理、品質・衛生管理・生産管理全般においても積極的に取り組んでいるが、地域単位のブランディングが課題

No	大項目	No	中項目	得点	コメント
5	品質管理・ 生産管理	5-1	採苗	5	・生長性、高水温耐性、耐病性、嗜好性等を勘案し複数の品種を選定
		5-2	付着物の除去	5	・付着生物の除去等を徹底
		5-3	養殖施設の管理	4	・網や機械のメンテナンスは定期的実施
		5-4	品質管理全般	4	・漁協が定めた品質基準等を遵守
		5-5	生産管理全般	5	・育苗期の干出管理を十分に実施
		5-6	衛生管理全般	5	・養殖施設・加工・出荷作業環境などにおいて衛生管理を徹底
		5-7	海苔の場合は乾 (ほし)海苔製造	5	・異物処理(異物選別機による検査等)、海苔の場合は「乾(ほし)海苔製造」、倉庫保管等に工夫がみられる
		5-8	包装・出荷	5	・包装・出荷時の検査は適切に実施
		5-9	認証取得	0	・特になし
		5-10	知財取得	3	・ブランド化を志向(商標未登録)

## 5. 詳細評価結果 ⑥リスク管理・対策

### 評価結果

評価合計 **19点/30点**

評価項目平均 **3.2点/5点**

可能な範囲での天災・病気対策は講じられており、特定養殖共済等にも加入していることから、一定のリスクへの備えはなされている。  
ただし、万が一のリスク発生に対して十分な備えをしておくには、任意保険または経営体として財務体質の強化が必要

No	大項目	No	中項目	得点	コメント
6	リスク管理・対策	6-1	天災回避対策	3	・食害対策については有効な策が講じることが困難
		6-2	病害対策	4	・病気発生の場合のトレースバック・回収を行う仕組みをもっている
		6-3	環境変化	4	・藻類の品質に影響を与える外部環境変化の発生状況を常に把握
		6-4	共済加入有無	5	・特定養殖共済・積立プラス等に参加
		6-5	損害保険加入有無	0	・加入していない
		6-6	市場リスク	3	・漁協単位でのブランド化を志向

## 6. まとめ

- 本養殖事業発展に向けては、さらなる衛生管理・品質管理と販路拡大への取組みを行うことで事業価値を高める余地あり。
- 一方、リスクに対する備えにおいては最悪シナリオを想定した備えを検討すれば、金融機関からみて資金回収の確実性がより高まる。

(凡例) セグメント

- I 強みを活かして機会を勝ち取るためには？
- II 弱みを改善して機会を獲得するための施策は？
- III 強みを活かして、脅威を機会に変える施策とは？
- IV 弱みから最悪のシナリオを避けるためには？

